

二人のママ

ほくにはママが二人いる。一人はお母さん、もう一人は「チビママ」とあだ名がついたほくのお姉ちゃんだ。ほくとお姉ちゃんは二つしかかわらない。だから決して、見た目が大人っぽいからということではない。どちらかというところほくの方が少しだけせが大きい。小さいお姉ちゃんという、「ふたごですか。」と時々聞かれることがある。そんな見た目は子どものお姉ちゃんが、どうして「チビママ」とよばれるのかというと、すごく大人みただからだ。

たとえば、四才の妹がトイレに行く時。こわがりの妹は、夜はかならず一人でトイレに行けない。いつもは生意気なのに、こんな時だけ赤ちゃんのようにあまえて「だれかトイレついできて。」とおねがいをしてくる。ほくはめんどうだなと思いつつ時々むしりたりもする。でもお姉ちゃんは、テレビを見ていても、しゆく題をしていても、自分のことを後回しにして、妹について行ってあげる。おまけにおしりまでふいてあげる。そして、決してやったことを自まんもせず、またもくもくと自分のことをする。

ほかにも、ほくの家は七人家族なのにおかしが六こしかなかった時。「わたし、そのおかしあんまりすきじゃないしいらんわ」と言った。お姉ちゃんはよく空気をよむ。お姉ちゃん

がいが手ではないことをほくは知っている。この時も、ゆずつてあげたよ自まんもしないで、すごく自ぜんだった。

ほくとたった二つしかちがわれないのに、お姉ちゃんはおかいい大人のような。でも、そんなお姉ちゃんが赤ちゃんのようにない時があった。子どもの日の夜だった。

なんでないのか、何があったのか分からなかったけれど、その日は夜ごはんも食べずにお姉ちゃんねてしまった。いつもはお母さんにおこられても、なみだをぐつとこらえているお姉ちゃん。そんなお姉ちゃんが大なきしたのはじめて見た。

ほくは心ばいした。「お姉ちゃん大じょうぶかな。おなかすいていないかな。」でも、次の日の朝、おきてお姉ちゃんに会うと、またいつもの「チビママ」にもどっていた。ほくはホツとした。お姉ちゃんが元気であること、そして、大人かと思つたお姉ちゃんもやっぱり子どもなんだって分かったからだ。

今日もお姉ちゃんは「チビママ」だ。ほくのしゆく題を見てください、ほくがあまりにもゲームが弱かったから、さりげなく手かげんをしてくれた。お姉ちゃん、いつもありがとう。でも、またいつでも赤ちゃんになってもいいからね。ほくが「チビパパ」になってお姉ちゃんをまもるからね。

倉知 健斗